

<p>会報</p> <p>第70号</p>	<p>Mt. Iwaki Conservation Association</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2016年9月27日発行</p> <p>岩木山を考える会</p> <p>会長代行 小堀英憲</p>
-----------------------	--	--

岩木山講座④ 志賀坊森林公園の自然観察会とキノコ汁

ブナ林の黄葉が始まり、津軽地方の秋は次第に深まっていきます。岩木山を考える会では、平川市志賀坊森林公園の山野草や木々の果実を観て、紅葉の森林浴に癒されながら散策した後、岩木山を眺めて、秋の味覚キノコ汁を味わう観察会を企画しました。皆様お誘いあわせのうえご参加ください。

期 日 10月16日(日) 10時～13時

集合場所 志賀坊森林公園駐車場 10時集合

持ち物 雨具・長靴または登山靴

参加費 500円(保険代・きのこ汁代)

申込み 竹谷清光 電話 0172-36-6686(午後5時～9時)

申込締切日 10月14日(金)

第37回東北自然保護の集い

テーマ「野生動物の保護について」

「自然再生エネルギー政策の現状と課題」

日時 10月22日 12:15～受付

講演 野生動物の現状と課題(仮題)慶応大 鶴野レイナ氏

木質バイオマスエネルギーの利用と課題 山形大 野堀嘉裕氏

10月23日

8:30～11:30 東北自然保護団体協議

12:30～15:00 現地研修

参加費 A 22日講演のみ 1000円

B 全日程 9000円

C 講演+交流会 5000円

※申し込みは氏名、参加様式、現地研修の参加有無をお知らせください。

※交通費、参加費の一部に会から補助が出ます。

岩木山を考える会としての申込先 阿部東 36-4205(FAX,TEL)
直接事務局の申込 佐久間憲生方 0235-64-3854(FAX,TEL)
直接事務局の参加費の送り先 出羽三山の自然を守る会 02450-0-5885

申し込み〆切日は 岩木山を考える会阿部迄 10月 8日
出羽三山の自然を守る会迄 10月 10日

岩木山講座① 春の観察会 in 梵珠（又白山）報告

5月8日、「梵珠少年自然の家」駐車場に集合して、参加者 19名。風の強い日でしたが、林の中の稜線歩きのため気持ちのいい春風の中を新緑、山桜を展望しながらの絶好の観察会日和でした。ミズナラの花、ハウチワカエデの花の咲く自然環境豊かな所です。

歩き始めの所で、エゾタンポポを見ることができました。オオバクロモジ、シュンラン、キバナイカリソウ、テングスマレ、ツボスマレ、カタクリ(実)、チゴユリ、ツクバネソウ、ツルシキミ、ヒトリシズカ、フデリンドウなどの花に出会えました。

若い3人の参加者が、梵珠山の釈迦方面から修正して集合場所に遅れましたが、竹谷幹事から改めてガイドを受けました。

昼食を車座でとり、阿部東幹事より植物と昆虫の関わりについてお話がありました。自然の成り立ちについて少し深められた、とても大切な観点だと思いました。

藤原裕貴子 記

岩木山講座① 参加者感想文

5月8日はお世話になりました。以前、カタクリを見に行ったことはありました。今回は竹谷さんのガイドで花の名前をお話ししてもらいながらで大変うれしい観察会に参加することができました。東奥日報の記事を見て連絡し友人と参加することができよかったと思っています。色々の花を見た中でちょうど一番咲いていた白いイカリソウが目に焼き付いています。近いのでまたいきたいという気持ちはありますが農家をしているので、次々収穫できるようになる野菜におわれています。皆様と一緒に参加できありがとうございました。

花田順子 記

岩木山講座② 弥生スキー場跡地観察会報告 6月18日(土)

今回の観察会は、弥生ネットとウォッチング青森の共催で開催されました。当会は、弥生ネットの構成メンバーとして案内などに協力しました。当日は市民の親子5組をはじめとして、一般参加者、講師、ウォッチング青森からの参加者、弘前市からは公園緑地課課長を筆頭に併せて30名が参

加しました。当会からは5名が参加し運営に協力しました。市の関係者とともコース決めの下見を1週間ほど前に実施しましたが、当日は、勾配の急な斜面に安全確保のザイルを張るなどの配慮がされ、コースの除草刈りも含めて市が行ってくれました。

観察会では、沢に入ってニホンザリガニを20匹近く見つけたり、普段聴くことのない自然の音に耳を澄ませたり、甘いクワの実を味わってみたり、子供たちばかりか親御さんにとってもいろいろな発見があったのではないのでしょうか。

当日、弥生いこいの広場には保育所の合同イベントがあり、数百人の幼児でにぎやかでした。広場のすぐ隣に、子供たちが自然に触れ、親しむことができる広大な場所があるのです。弥生ネットでは、引き続き、ウォッチング青森の協力を得ながら、弥生跡地をどのようにしたら多くの市民が利用できるようになるか市民の森づくりを模索しており、当会も、引き続き取り組みに協力していきます。



どうやって、この鉄の輪の間を木が潜り抜けたのだろう？

竹浪純 記

岩木山講座③報告 ゴマシジミの観察会に参加して

参加者は11名。NHKの取材が入りTV放映されました。

ミズバショウ沼近くの、ゴマシジミ発生地のススキの刈り払いを当会として2012年から毎年行っています。ナガボノシロワレモコウの生育を助けるためです。ゴマシジミの観察を続けてきた阿部東幹事の提起を受けて、取り組んでいます。去年は県、市の担当部署とも協議して行いました。ススキ、ヨシは人の背丈位によく茂っていましたが、ワレモコウも負けぬ勢いで咲いていました。

集合は10時。陽差しが強くなるとゴマシジミの数が増えて活動的に見えました。アリも花穂によく見られました。2012年の観察会では、傍観者的に参加していました。今回は毎年の会としての「ススキの刈り払い」取り組みを知っていたこともあり興味深く臨みました。ゴマシジミやアリの活動に目を凝らしました。ゴマシジミはナガボノシロワレモコウの蕾に産卵し、幼虫の始めはワレモコウの花を食べ、四齢まで育つと地上に降ります。そしてシワクシケアリの巣に侵入しアリの幼虫を食べて育つ、ゴマシジミ。とても不思議で興味深い自然界の、身近な岩木山麓でのことです。ススキの刈り払いと観察会、継続したい取り組みです。

藤原裕貴子 記

※ゴマシジミが絶滅危惧種であることを知ってか知らずか、この場所で捕獲をしている方がいるようです。対策を検討中です。(事務局 竹浪純)

幹事会に報告された、岩木山をめぐる情報・報告より

- ・ 小白沢に入ったが、今年はまだ雪がない。エゾノリュウキンカも例年より相当早く咲きトウが立っていた。水芭蕉も終わっていた。岩木山の北西麓から雪形を眺めたが、形が崩れるのが早い。赤石川の河口方面から岩木山を見ると、ゴリラの形の雪形がみられる。(5/7(土)花田)
- ・ 赤倉登山道9番観音の傾きが修復されていた。26番観音の付近は、径から右側1mほどの先が崖になっており尾根の崩壊が進んでいる。虎ロープを張っているので注意してほしい。大開の付近も1m 足らずしか余裕がないところがある。キレットを見上げると岩がガラガラ崩れる音がしていた。(5/28(土)花田)
- ・ 嶽農村公園付近のススキ刈り払い作業後、阿部と竹浪がスカイライン経由で山頂トイレの調査に行ってきた。大きなハエが飛んでいた。種を同定するために捕獲してきた。去年見られた殺虫剤のようなものは撤去されていた。大館鳳鳴小屋の扉やベッドの修繕が行われていた。扉から雪が入らないような措置がされていたが、手をかける部分が貧弱で厳冬期に開けられるかどうか疑問。壁と引き戸の隙間からは相変わらず雪は侵入するものと思われる。厳冬期のチェックが必要。(6/23(木)竹浪)
- ・ 嶽登山道の標識が倒れていたなので、臨時に標識をつけてきた。(7月工藤)
- ・ 弥生の新コースから山頂まで歩き、大鳴沢源頭の高山植物を観察した。1.7kmの新道はきっちりしていて道幅も広い。6合目から竹藪が濃くなり、かき分けて歩いているうちに手を切ってしまった。弥生いこいの広場の駐車場は開門時間があるので注意書きが必要だ。(7/23(土)花田)
- ・ 赤倉26番観音付近が崩壊しないことを祈る。(齋藤)
- ・ 弥生登山道2合目の道標がクマにかじられていた。(齋藤)
- ・ 工藤幹事が8/11山の日に弥生登山道新コースを登ったら、5合目付近でクマに出会ったとのこと。(花田)

岩木山環境保全協議会 2016 年度通常総会に出席、意見提出

今年例年より早めの4月13日に総会が招集されました。構成は、弘前市観光政策課、津軽森林管理署、岩木山神社、(株)岩木スカイライン、青森県自然保護課、日赤岩木山パトロール隊、岩木山観光協会、そして当会です。オブザーバーで行政各課と弘前勤労者山岳会の清野代表が出席しました。当会からは小堀代表代行、竹谷幹事、竹浪の3名が出席しました。

総会では、事業報告、収支決算の承認、28年度事業計画、収支予算案の承認がされました。また新たな会員として、「津軽百年の森づくり」(会長：根深誠)を承認しました。

総会ではさらに、根深氏からの提案があった弥生登山道の付け替え 弥生いこいの広場

から新たに大長峰まで登山道を作る件が承認されました。主体は津軽百年の森づくりで、弘前市がサポート、協議会も協力する。8/1 1山の日開通をめざすことになりました。(その後、新道づくり作業に当会からも竹谷幹事、齋藤幹事が参加し協力しました。8月11日の山の日には開通式が行われ、当会から3名が出席し、新道を通り4合目まで登ってきました。)

総会の最後の部分で、当会から以下の項目を提案要請し、意見交換しました。(ゴシックはその後の経過です。)

1. 赤倉登山道26番観音付近の登山道崩落危険回避の件

2014年7月31日に、当会が26番観音付近赤倉登山道のすぐそばの急斜面が大崩落していることを確認して以来、崩落が徐々に進行しています。今年4月2日に付近を確認してきましたが、登山道までの崩落はまだないようです。しかし、今後崩落の危険性がますます高まると考えられます。雪解けが進み、この登山道に入る登山者も出てくると思いますので、その前に調査を行い、危険性を判断し、必要があればテープを回すなどの措置を施したうえで、登山を認めるなど、慎重な対策が必要ではないでしょうか。(調査を終えるまでは登山禁止措置なども考慮したらどうでしょう。)

現在、危険テープを張り巡らしています。ここを通行の際は、径にひびが入っていないか気を付けながら、速やかに通行するようにしてください。

2. 焼止、鳳鳴小屋整備の件

2015年度の予算で、避難小屋が整備されたことはいずれも思っています。ただ、整備の内容の一部についてどのような専門的見地が取り入れられたのかはなはだ疑問なので、改めて問題を指摘します。岩木山を青森県・弘前市の観光資源として考えているのであれば、県外からの登山者が見ても恥ずかしくないような整備をすべきではないでしょうか。

① 鳳鳴避難小屋については、入口の引き戸が改修されました。しかし、引き戸の材質等の仕様が平地住宅用のアルミサッシで、鳳鳴小屋のような高山での使用に耐えるものではありません。再度、改修計画を立て直すように要望します。その際、山岳会などからの専門的な知見を十分取り入れてください。

(ア) (概要) 引き戸には大型の取っ手が必要。

(イ) (概要) 雪が入り込まないようなもっとながしりした仕様の引き戸が必要。

② 焼止避難小屋については、軒や外壁、備え付けのベンチなどの内装の修繕が行われました。ありがとうございます。しかし、厳冬期に利用することが頻繁な2階入り口のコンクリート庇が折れたままになっているのは困ります。厳冬期は、1階入口が完全に雪の下になるため、軒を足場にして2階入口から入り込むこととなりますが、今年のような積雪が少ない年は特に軒までの距離が遠いと手がかりもなく、入るのが非常に困難でした。直接、入口の枠に手をかけて中に入るのは、中を見ると2階の高い部分に入口があるので、非常に怖い。折れた軒の部分は、人が入るための手がかりとなるだけではなくザックなどの大型荷物を載せる場所にもなるので、ここが折れているのは極めて不便です。

① (概要) コンクリートの庇の修繕。軒の裏側にスコップを。

② (概要) 横に鉄の梯子を。

③ 鳳鳴、焼止両方に言えることですが、避難小屋が登山道修復等のための物置を兼ねているような状況があります。修理の部材などは小屋の裏などに保管するようにして、避難小屋を快適な空間にすることも今の時代には必要なことではないかと考えます。

3. 岩木山体への地震計、傾斜計観測施設の設置の件

昨年10月、御嶽山噴火に伴う岩木山の危険予防措置について、当会として気象庁青森地方気象台火山防災官と話し合う機会がありました。鳥海山先端に広域地震計、百沢焼止小屋の横にある平らな部分に傾斜計を設置したいとのことでした。当会としては、観測機器の設置自体は必要な措置であり、反対するものではありませんが、鳥海山先端のハイマツ等の伐採には反対で、現在裸地になっている部分に設置すべきと提言しました。傾斜計設置予定場所は、以前底雪崩があり小屋が崩壊した場所であることを指摘し、現在の避難小屋の付近への設置を提言しました。その後、地震計、傾斜計はまだ設置されていないようです。今年度実施されるものと思われまます。経過と考え方を共有しておきたいと思ひます。

その後、8月上旬、県自然保護課職員に聞いたところ、当初予定場所への設置がなされる予定だとのことでした。当会の意見が取り入れられず残念です。鳥海山頂部分の生態系の変化に留意が必要です。

4. 入山ポスト設置の件

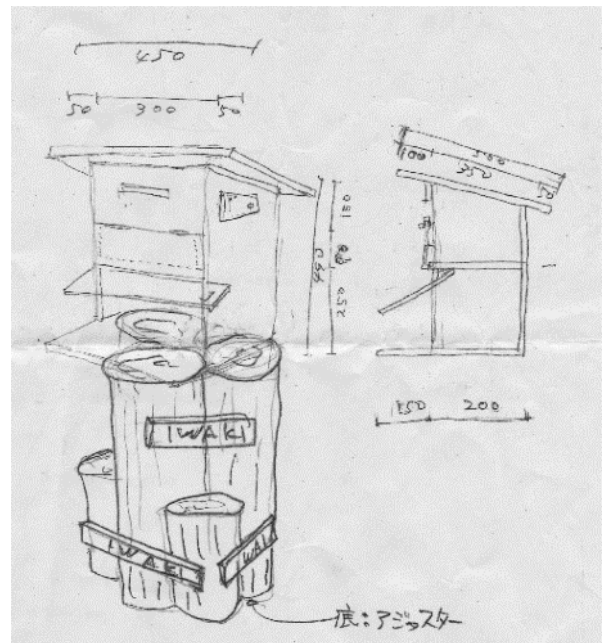
登山ポストイメージ図

入山ポストの設置については、去年の総会で当会から提案し、関係機関と相談したとの回答をいただいております。その後の検討状況をお知らせください。

去年の当会の提案のポスト設置場所案について、一部変更提案しますので改めてご検討ください。

<弥生登山道> 弥生いこいの広場ハイランドハウス付近(弥生登山道入口を当該広場へと変更する新たなルートが検討されていることに鑑み。)

入山ポストの設置については、弘前市が5か所に設置の方向で準備を進めています。設置場所についてですが、嶽登山道は、登山道入口の鳥居の横、百沢登山道はスキー場リフトハウスの横、弥生登山道はハイランドハウス付近が候補に挙がっています。冬季に登山者がすぐわかる場所に設置したいですね。



5. 岩木山頂トイレのハエ対策と殺虫剤の件

2015年夏に当会会員より、岩木山頂トイレにハエがびっしりついているとの知らせがあったため、ハエの動向に留意してきました。この問題では、先日行われた当会総会でも、出席した会員より、県外の旅行者から山頂トイレにハエがいるのはいかがなものか、との注意があったとの発言もありました。なぜハエが発生するようになったのかということが総会で議論になりました。

その結果次のような見解を持ちましたのでご検討・ご理解ください。

＜状況判断＞

- (ア)「頂上効果」と言って、一般的に高いところに虫が集まる傾向がある。併せて登山者が出すゴミに寄って来る。ハエの増殖は汚物が原因と考えられる。
- (イ) 新しいトイレはバイオにより汚物を分解しようとするものだが、標高が高く気温が低いために微生物による分解が追い付かないのではないかと考えられる。(分解速度が排泄量に追い付いていない。)

＜対策＞

- (ア) 汚物の量を減らすこと。下のトイレで事前に済ませ、頂上トイレの利用はできるだけ避けるようにするような啓発活動を行う。
- (イ) 携帯トイレを推奨する。使える場所を確保することが必要。
- (ウ) 攪拌回数を増やし、汚物を早めに下ろす。

＜留意事項＞

薬剤の設置や散布は、頂上付近にいる昆虫にダメージを与え、昆虫と共生している植物にも結果的にダメージを与えることにつながり、岩木山の脆弱な生態系維持にとって非常にリスクが大きいのでやめてほしい。

その後の経過については、「幹事会に報告された、岩木山をめぐる情報・報告より」に記載(4ページ参照)。

6. スノーモービルの件

スノーモービルによる特別保護区域への侵入(違法走行)が今年も見られています。県外からも来ているようです。対策を強化すべきと考えますがいかがでしょうか。

(事務局長 竹浪 純)

弥生コースの新設登山道開通を祝う

「弥生憩いの広場」から「弥生登山道 3 合目」まで、関係各位様の御尽力により新登山道が開設されました。これは岩木山史に刻まれる画期的なことのひとつと思われます。以前からこのコースの新設登山道開設の可能性を本会・竹浪事務局長等から耳にすることはありました。それが実現となったことは素晴らしいことに違いありません。


小生個人は7月18日の整備作業と8月11日の開通式に参加させていただいて「夏の暑さ」と「カラポネ・バテ」と「蚊の襲撃」にゼーゼーとなっただけですがこの新道の開設に至ったことは「諸手続き」「刈払い」「道標設置」等々の諸課題を克服の上での御尽力の結果であると思われます。又「駐車場・一部区域の閉鎖時間の問題」「道標の耐雪圧の問題」等の小課題はありますが、いずれにせよ「根深様とつがる百年の森づくりの方々」その他の関係者各位様には感謝の意を申し上げる次第です。「弥生コース」は「他の百沢・岳・赤倉コース等」に比べれば登山者は比較的少ないとは思いますが、このコースは「知る人は知る」のコースでいつの季節でも登山者の形跡があったり、実際に出会ったりします。他県の方とも出会ったりもします。小生は特に「秋季の下山時の空気感」が好きなコースです。

今後は小生も賛同ですが各位様共々「6～8合目間の笹刈払い」「8～9合目耳成岩下の急斜

面横断個所の改善」「下山時における5～4合目の枝分かれ下降による道迷いへの対策(赤テープだけでよいと思う)」等々改善には小生は協力尽力を惜しまないつもりです。(バテ病が出なければ?)余談ながら今秋も各山々には「熊さん」への注意が必要と思われます。


齊藤真人 記

会員継続と平成28年度会費納入のお願い

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度も引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願ひいたします。

会費は同封の払い込み用紙または最寄りの幹事を介してお納めください。なお、会費納入状況をお知らせする付箋を同封しておりますので、ご確認ください。(2016.4.5.現在)

会員の皆さんへお願ひ

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

※編集後記

暑い夏も終わり、我がりんご園も収穫の時期を迎えています。前回ここで書いたニホンミツバチについてですが、なんと！採蜜直前にクマに襲われてしまいました。栗の樹の下に設置していた重箱式の巣箱は無残になぎ倒され、中のハチミツがたっぷり入っていた巣は半分以上無くなっていました。しかし、なぜか全部は食べず。そのせいか蜂たちは逃げずに留まっていたので、巣箱を元に戻してなんとか再建中です。巣箱の周囲を探索すると、熊の糞と熊が杉の木の樹皮を剥がした跡がありました。また熊が来ないように、ラジオを置いたり釣り糸を張り巡らしたりしています。果たして蜂たちは無事に冬を越せるのでしょうか？養蜂も簡単ではないですね。熊も、今年はやたらと出没情報を耳にするのは、山にエサがないからでしょうか？白神の沢に入った時に、去年はよく目にしたミズキの実や山ブドウが今年は殆ど見られませんでした。熊も必死なのかもしれませんね。来年こそはおいしいハチミツを食べたいなあ。

小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第70号(2016年9月27日)発行／岩木山を考える会

副会長(会長代行) 小堀英憲

〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15／電話0172-87-1910

事務局長 竹浪 純／電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会